

国際融合医療協会発足式 記念講演会

～ 統合医療から融合医療の時代へ ～

テーマ：

1. 融合医療とは何か
2. 伝統と現在を結ぶ医療とは
3. 日本から発信すべき医療とは何か

日時： 6月12日(土) 15:00 ～ 18:00
場所： 昭和大学 4号館 5階500号室 (下記地図参照)
参加費： 無料
参加者： 医師、歯科医師、薬剤師、その他医療関係者、
漢方及び代替医療、統合医療に関心のある方

第一部 講演

1. 基調講演 15:10～16:10

「印度のアユルベータの現状と国際的な融合医療の必要性」



廣瀬輝夫 (医) 日本医療経営学会理事長

印度のアユルベータの現状について紹介し、中国・韓国・印度での融合医療のどうこうの問題点を指摘し、漢方薬、和漢薬の研究の促進と増産、漢方と針灸および整体術、按摩、マッサージにより日本独自の融合医療を確立し、更に、種々の民間療法も取り入れて指導的な国際融合医療協会設立の必要性を述べます。

プロフィール：

1948年千葉大学医学部卒、卒業後中山外科でがん手術研究、1954年心臓外科手術研究のため渡米、ハーネマン大学で研修終了 1955年閉鎖心臓中核欠損症閉鎖新手術開発 1957年千葉大学医学部講師、胃切除後愁訴の研究で博士号取得 1959年再渡米、ニューヨーク医科大学で外科講師として心臓外科研究 1960年犬に煙草による肺がん作成に成功 1961年世界初の自家組織による僧帽弁再建手術施工 1963年米国外科専門医取得 1964年米国内臓心臓外科専門医取得 1966年世界初の無血人口心臓を開発し無血開心術施工 1968年世界初の内臓動脈冠動脈直接吻合バイパス手術成功 1970年右胃大網膜動脈使用による心筋後壁血行再建バイパス手術成功 手術例は一般・胸部・心臓・血管外科を含め約3万例、うち開心術は1千例、無血大手術1万2千例、無血大手術1万2千のうちエホバの証人の手術8千例 1974年ニューヨーク医科大学臨床外科教授 2000年秀明大学医療経営学学科主任教授 2002年日本医療経営学会設立、理事長 2006年プレメディカル東京学長、秀明大学名誉教授

2. 講演

1) 「融合医療の実践モデル」 16:10～16:30



陰山康成 (医) 癒合会 理事長

現代医療の礎となる哲学は当然西洋哲学で、分離と秩序がキーワードです。21世紀は分離から融合する方向性への医療哲学のパラダイムシフトが必須ですが、わかりやすいモデルが歯科医療と一般内科の融合です。融合医療の臨床モデルを紹介させていただきます。

プロフィール：

医師、歯科医師：医療法人社団 癒合会理事長
一般社団法人国際和合医療学会理事
医師、歯科医師のダブルライセンスドクター

福岡県立九州歯科大学および東海大学医学部卒業。医科は救命救急科、整形外科を専攻。歯科は麻酔科を専攻した。東洋医療は鍼灸経絡治療、アユルヴェーダ、ホメオパシー、中医学、気功等をそれぞれ専門的教育組織で修学。ロンドン大学医学部留学中に各種統合医療研修。平成18年より西洋医療と東洋医療のよいところどりをした和合医療を高輪クリニックにて開始。東京・京都・札幌の高輪クリニック及び岐阜大学救命救急科非常勤にて勤務。

パネラー紹介：



塩田清二 昭和大学医学部教授
医学博士

プロフィール：

日本解剖学会 評議員、日本組織細胞化学会評議員、日本臨床電子顕微鏡学会評議員、日本臨床分子形態学会評議員、日本肥満学会評議員、日本アロマセラピー学会評議員理事長、日本糖尿病・肥満動物学会評議員・理事、日本比較内分泌学会幹事、日本下垂体研究会幹事、GPCR研究会世話人、核酸・核タンパク機能性研究会 常務理事

昭和51年 昭和大学医学部第一解剖学教室助手、昭和58年 同教室専任講師、平成9年 同教室助教授、平成11年～ 同教室主任教授、同大学大学院医学研究科細胞構造分野教授、同大学ハイテクリサーチセンター教授、平成13年～ 米国チューレン大学医学部教授 (兼任)、平成18-20年 昭和大学富士吉田教育部教授 (兼任)、平成20年～ アンチエイジング寄付講座教授 (兼任) 現在に至る



モデレーター：
酒生文弥
NPO法人免疫療法懇談会 理事長

2) 「今、求められている医療 ～融合医療とは～」

16:30～17:00



丹羽正幸 (医) 丹伎会
丹羽クリニック 院長

現在、日本を含め世界では、細胞病理学説と特定病因論を乗り越え、本質から病気を克服し、予防する医療が求められている。伝統医療、現代西洋医学及び統合医療等の医療モデルが出現してきた中で、これらを融

合させた治療学はエビデンスとしては未だに確立されていない。本来の医療は生物の中で最も複雑な人の身体を体系的に把握し、各自が持つ複数の病気を整理し、原点に於いて人に本来備わっているヒト治癒能力 (自然治癒力・自己治癒能力・自然治癒能力) を高めていくことにある。今後、求められる医療「融合医療」について述べる

プロフィール：

医療法人社団 丹伎会 丹羽クリニック 院長
社団法人新宿区医師会理事

横浜市立大学医学部卒。横浜市立大学附属病院第二外科入局。米国カリフォルニア大学サンディエゴ校留学。城西歯科大学 (現 明海大学) 外科学講座講師。1988年丹羽クリニック設立。大学医学部在籍時より東洋医学研究会に所属し、漢方医学の第一人者・石原氏に師事し、東洋医学 (漢方) のみならず世界の伝統医療の研鑽を積む。解剖学に則して丹羽式正體 (せいたい) を考案、また40年に及ぶ漢方医学の研究と35年以上に渡るビタミン・ミネラル研究をもとにそれらを臨床応用。統合医療を用いて自然治癒力を高め、ガン・糖尿病・アトピー性皮膚炎などの難治性疾患にも多くの治療実績をあげている。

第二部 パネル ディスカッション

17:10 ～ 18:00

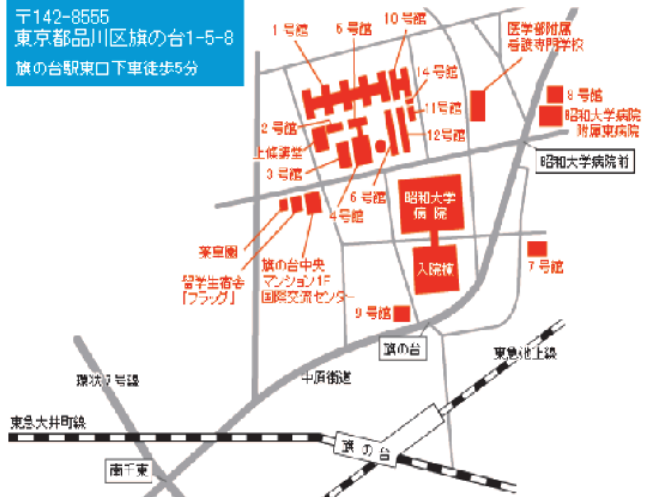
パネラー：

廣瀬輝夫 丹羽正幸
塩田清二 陰山康成 モデレーター：酒生文弥

テーマ：1. 融合医療とは何か
2. 伝統と現在を結ぶ医療とは
3. 日本から発信すべき医療とは何か

アクセス

〒142-8555
東京都品川区旗の台1-5-8
旗の台駅東口下車徒歩5分



主催：国際融合医療協会
共催：NPO免疫療法懇談会、日本アロマセラピー学会
国際和合医療学会